

- 少量多品種・高品質・複雑形状などの生産におけるコスト削減を実現
- 収益性を改善し、市場競争力を向上させることに成功
- 新分野への市場拡大による受注拡大を目指す体制が整った



木目調の塗装を施した建材

## 宮越工芸株式会社

製造業(金属製品、塗装加工)

平成25年度  
H25ものづくり技術  
一般型

設備投資

最新塗装システム導入による  
高品質・高難度品への挑戦

導入された自動静電塗装装置

## 会社の概要

当社は、高岡市の伝統産業である高岡銅器の着色工場として、昭和25年に高岡市横田町で創業した。

昭和45年に、アルミ建材の皮膜処理工場と塗装工場を当社の現在地である高岡市長慶寺に新設した。現在までに、東京都千代田区の三井住友銀行本店や日本経済新聞社、同墨田区の東京スカイツリーなど、多くの高層ビル用建材の塗装を手がけている。

また、福利厚生施設であるMCホールと長江工場が、第1回高岡市

都市美景観賞を受賞したほか、従来の模様塗装技術を活かした生活雑貨の事業展開が評価され、経済産業省「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選ばれた。

当社の宮越一郎社長は、全国の焼付塗装業者でつくる「アルミニウム合金材料工場塗装工業会」の会長を務めるなど、業界全体の技術や認知度の向上にも取り組んでいる。

創業から65年以上となり、アルミ建材塗装で国内トップクラスの企業として、業界をリードする存在となっている。

## 補助金事業の内容

ビル建築業界は、オリンピック関連で一部受注増はあるものの、全体的には低迷傾向にある。住宅関連も、消費税増税前の駆け込み需要が一段落したことや、今後の人口減少などから、先行きの不透明感が増している。

このような市場の流れのなか、当社の売上構成は、ビル建材が40%、住宅建材が50%を占めている。また、客先の建材部品の調達先は、海外へ急速に移っている。

一方で、国内企業への発注は、小ロット、高品質・高難度品となる傾向にある。要求される品質も、耐候性などの塗膜性能はもちろん、外観の美しさの基となる色調の均一性などを強く求める高度な仕様が求めている。

当社の塗装は、機械による自動塗装と手作業による補正塗装を組み合わせたものである。こうしたライン塗装では、品質の良し悪しは機械の性能に依るところが大きい。

しかし、当社が使用していた自動塗装設備は、設置からすでに20年以上経過したものである。その性能は最新のものに比べ格段に劣っていた。

こうした様々な状況を背景に、当社が選ばれ続けるためには、品質のさらなる向上による他社との差別化が不可欠となっていた。

そこで、当社は補助事業により、



長江工場

会社データ

創業 昭和25年4月1日

代表 宮越 一郎

所在地 高岡市長慶寺995番地

TEL/FAX TEL:0766-20-3854 FAX:0766-20-3855

E-mail info@miyakoshikogei.co.jp

U R L http://miyakoshikogei.co.jp/

資本金 5,000万円

従業員数 180人

取扱製品 各種金属製品の塗装加工(ビル用建材製品・住宅建材製品・エクステリア用建材製品・自動車部品・電器部品・美術工芸品)

高性能な最新の塗装システムを導入しようと考えた。

## 補助金事業の成果

今回の補助金事業で購入した機械は以下の3点である。すべて長江工場の塗装システムに設置された。

## 1.自動静電塗装制御システム

塗装ラインの完全自動化を目指した装置である。塗料の噴出量などを細かく調整し、部材の形状を読み取り、形状に合わせて無駄なく塗装することが可能になった。

## 2.小型乾式ブース

塗料のミストをフィルターに付着させ、効率的に集める装置である。塗料を加熱乾燥する前に、塗膜を安定化させる装置に設置した。これにより、形状に合わせた手拭き補正ができるようになった。

## 3.空間トリック

イオンを無風で発生させ、部材に付着した埃を取り除くシステム。これ



導入された空間トリック

まではエアガンで埃を飛ばしていたが、舞い上がってしまい、完全に除去することができていなかったため、不良の発生を防ぐことができなかった。

これらの設置により、塗りムラや埃による不良品が減り、生産性は目標としていた5%アップを達成した。

## 今後の展望

本事業で生産工程の効率化や不良品の削減を果たしたことにより、新たな販路開拓や受注増が期待されている。

具体的には、サッシなどの建築材料にとどまらず、自動車や鉄道車両などの輸送用機械や太陽光発電の架台柱、自家発電関連、建設機械のほか、介護ベッドなどの医療用機械や部品などでも受注拡大が見込まれている。

また、今回、乾式ブースを導入したことに加え、塗装ブースの循環水を微生物処理することで、環境負荷を軽減した。環境にやさしい企業としてのイメージ向上にもつなげていく。



英国向け新幹線車両部品